

2012年11月9日 いよいよCD発売となりました。これは、2012年5/28-6/4に行ったNew York録音ストーリー、その経緯や推移の記録です。

1年前の私は、「NY録音なんて無縁！あり得ない！」と思ってましたし、私ごときが・・・と、躊躇・気後れがありました。が、考えてみれば望んでも簡単に実現できることではないので、たまたま恵まれたNY録音のご縁に、「エイッ！」ってスカイツリーから飛び降りる覚悟で実行したのです。画像はインターネットの私のブログ2012/6/3-10記事に掲載しました。<http://randell.cocolog-nifty.com/>

【決断まで】

2011年9月、ベニーグッドマン楽団のメンバーとして来日したSax奏者Jack Stuckeyさんに、知人宅でお会いしたご縁がきっかけになりました。



音楽コーディネータはJackの仕事仲間で、日本で言えば前田憲男さんの若い頃に近いイメージかなあと思う、NYで活躍中の作曲・編曲・サクソ奏者Andy Farberさんに白羽の矢が立ちました。彼はジュリアードでジャズを教え、彼のオーケストラはバードランドで金曜夜に演奏をし、映画TVでも幅広い編曲・作曲・演奏活動をしています。

2012年1月 彼が編曲、スタジオ押さえ、そしてミュージシャンを手配してくれるというのです。

「普通はトリオやカルテットが多いけど、8ピース=8名編成のアレンジを入れたら面白いのでは？」

それは凄いけど、費用も凄くなりそう。・・・真っ青になりながら、2-3ヶ月悩んだ末に大決断をしました。

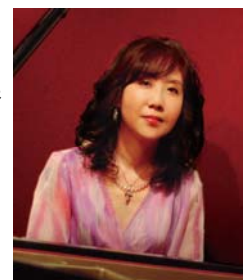
・・・やろう！人生に寄せて来た波には乗ってみよう、と。



【準備期間】

選曲は悩みました。前作のCDと同じ曲は入れず、ジャズだけでなくポップス系も入れ、リズムもバラエティに富ませて・・・。

2012年3月 曲を決め、テンポはこう、この部分はどうしたい、、、など細かくAndyと直接会って打ち合わせたいところですが、相手はNY。メールやSkypeでやりとりし、歌いたいイメージをmp3で送りました。



前作CD“*That's All*”共演以来、お世話になっているピアノの山岸さんも、

一部編曲と演奏、そして音楽サポートをお願いして、渡米が決まりました。

2012年4月 滞米日程は長く取れないので、アレンジ譜面を出発1カ月前の4月末までに入手し、日本でしっかり練習をしてから渡米する計画でした。

ところが・・・、Andyに大きな仕事が急に入って忙しくなり、なかなか譜面が届きません。

-----これは私にとって大きな不安要素であり、ストレスともなりました。周囲から

「まあ、そんなもんだ」とか、「大丈夫？騙されてるんじゃないの？」

とさえも言われつつ、ほんとに大丈夫だろうか？もうやめてしまおうか！？と葛藤の日々です。

未知のNY音楽シーンでの物事の進め方、やり方への不安が募りました。大きな会社にサポートされるメジャーな歌手ならばこういう苦労はないんだろうな。

NYスタイル、、、これは、(ちょっと大げさだけど)人生について考える機会ともなりました:物事すべて自分の希望や予定通りには進まない。でも放り出さないで受け入れなくちゃ。そしてそれを楽しめる心の広さを持たねばいけないんだねって。。。

2012年4月半ば やっと他の演奏メンバーが決まってきました。(メンバーって録音が決まった時点で決めるものだと思ってましたが) NYは優秀なミュージシャンの層が厚いのでしょうか、結局はAndyの人脈で素晴らしいバンドとなりました。

Piano	Xavier Davis
Piano	Shoko Yamagishi(一部参加)
Bass	Ben Wolfe
Drums	Alvester Garnett
Alto Sax	Jerry Dodgion
T Sax	Andy Farber
B Sax	Jack Stuckey
Trombone	John Allred
Trumpet	Brian Pareschi

ピアノのザビエル・デービスは、フレディ・ハバート、ソフィー・ミルマン他と何度も来日しています。スタープレイヤーは80歳のジェリー・ドジオンです。ビリーホリディと共演し、有名なサドメル楽団で演奏し、フランク・シナトラ他著名人と共演が無数にあります。嬉しい反面、足がすくむ思いです。

2012年5月 NY在住の日本人コーディネータのヘルプも得てプッシュの末、やっと5月半ばからボチボチ楽譜が届き始めました。全12曲のうち、8ピースが5曲。残り7曲は山岸さんの編曲も含めてトリオ&カルテットです。全曲入手できたのは、やっと出発の3日前！

届いた譜面を見ると案の定、お馴染みの曲も、編曲で(当然ながら)あちこち変則的な進行になっています。質問や相談をなげかける余裕も



なく、練習もできぬまま、「やるっきゃない」で渡米。

【NY到着後】

2012年5月29日



NY到着翌日、Andy の自宅で打合せです。マンハッタンから車で約1
間半の郊外の住宅地、素晴らしい一軒家にグランドピアノとドラムセッ
トがあり、ピアノの上に置いたラップトップPCで編曲楽譜を見ながらチェ
ックしてゆきます。

難しいのはテンポの折り合い、私が希望する早さでは“早すぎる”と言
われることが多いのです。

8ピースの音の響きまで私は考えが及んでいませんでした。また、つい“bpmで80”とか、数字で
表現しようとする私の癖もよくないみたいでした。数字で細かく縛らずにその時の感覚でアバウト
系がいいみたい。(心配だなあ、、、ま、いっか)

【リハーサル】

2012年5月30日

翌日はジャズの組合ユニオンの事務所にある会場でリハーサル。Jack がユニオンのメンバーなの
で、ステージもある広い会場なのに1時間20ドル以下という格安料金で確保できました。

メンバー同士も初対面の人がありました。楽譜はその場で配られる初見にもかかわらず、2回目で
バシッと完璧に仕上がるのです。しかも楽譜にはアーティキュレーションという強弱の記号がほと
んど書かれていないのに、さすがプロ技、表現力豊かに美しくアンサンブルが決まるのが凄い……

そういう相手にああだ、こうだ、と注文つけるのは勇気が要りました。

頑張っって口に出しても、

「いや、こっちの方がいい」

と言い返されると、

「あ、わかりました」

と、従っちゃう(苦笑)私がいまして……ま、音楽的に信頼おけるので

安心ですが。時差ぼけと緊張で頭がぼ～っと興奮状態でもあり、冷静
な判断は難しいものがありました。

リハの時間が足りなくなると、

「New York State Of Mind は、明日、録音前にリハ、サラッとやろう」

と割愛されてしまいました。

(う～ん、途中5分の休憩と自ら言っときながら、15分もダラダラ休ん
でるから時間が足りなくなっちゃうじゃん！心の中で私一人でハラハラ、
多少イライラ、、、)

集中力とリラックスのメリハリがきっちり。全体としてはのんびり世間話を



して笑いながら和やかに進行するのです。

…何の連絡事項だろう？曲と曲とのあいだに交わされる会話に注意して耳を傾けると、なあんと別の仕事の世間話！さすがに地元の世間話には私も入っていけず、ちょっと異邦人気分を味わう私達ではありました。(真剣に英語聞くだけで疲れちゃったりして:笑)

ジェリー・ドジオンが2曲目の Black Coffee の後、“She's pretty good!” (彼女なかなかいいじゃないか)と言って微笑んでくれた(と、思う)のです。他のメンバーも一斉に拍手をしてくれたのが、信じられませんでした。その瞬間にちょっと自信と元気が出てきて“ヨシ、ヨシ！”と、心が落ち着きました。拍手来たのはこれと SWAY の2曲だけでしたが。

ジェリーは気さくで優しく、「福島はどうだ？仙台には何度も行ったので心配してるんだ」と尋ね、カルテット・リハーサル時、8ピースの他の管メンバーは帰ったのに、彼はひとり私の歌を最後まで聞いてくれました。また彼ほどの人が、練習のため？楽譜コードを“手書きで”メモするのです。楽譜は持ち帰らない、リーダーライブでないと自分のCDは販売しない…等、NY ルールは厳しそう。

【スタジオ】



リハの後、スタジオの下見をしました。スタジオは Andy の希望で、マンハッタンにある超老舗の Sear Sound。Yoko Ono 他 名だたる歴史的な演奏家が数多くレコーディングをした場所でした。ビルの4Fでロビーは普通の家のように、暗めで暖かいリビングルームみたいでした。スタジオのエンジニア達は、軍隊のようにすごくキビキビと、しかもマナー良く動きます。

(ちょっとでも遅刻するとその場でクビなんだって。エリートエンジニアなんだろうなあ…)

【録音本番】

2012年5月31日～



私だけが個別のガラス張りブースに入り、他のメンバーは衝立を立てて大部屋で録音。最近ではマイクが高性能、マイキングの技術でそれでもうまく音が録れるそうです。

最初の一曲目は演奏後、調整室に入って音を聞きなおしました。それがOKとなると、何と次からは take を聞くことをしません。

「だれかミスを告白したい人いるか？…じゃ、もう一度やろう」

「いないか？じゃ、OK。次の曲行こう」

ほとんどの曲が2 take、たまに3takeでOKとなり、どんどん録音は進んでゆきます。

そうそう、リハで省略された New York State Of Mind は、「最初から録っちゃおう」と、結局、“リハなし、ぶっつけ本番録音”でござりました。



ふう〜ッ！それでもノリでまあまあの仕上がりで何とか

歌えちゃった自分にもびっくり。NY Magic だ！

8ピース曲が終わると、出前を取って早めの夕食。そのあとでトリオとカルテット曲をやります。最後は”根性”、よく私の喉がもちました。



録音終了後、音源のデータがハードディスクにおとされるのを待ちます。

疲れ果ててソファに座り込んでボオ〜ッと、余韻に浸る2時間もあっという間に過ぎました。



山岸さんの編曲もメンバーから褒められていました。そして彼女自身ひたすら感動。山岸さんによると、ピアニストのザビエルは、一見細すぎるように見えるコード進行もすべて、すべて落とさず弾きこなししいメロディに弾きあげていたそうです。

たしかに微妙な音が、深くカラフルで鮮やかな音色に織り込まれ、彩られるのです。しかも上手いのに主張する演奏でなく、とにかくスッパライ！と絶賛。

録音中、私は歌うことに夢中でしたが、後から録音を聞き直してみると、おおおおお〜、これは各パート凄いことになっているのでした！迫力。

ホテルの部屋に戻ると、疲れているのに興奮冷めやらず。メールしまくり。ジャズ評論家の岩波洋三先生にも思わず電話をしてしまいました。

「先生、終わりましたあ！」

「おお、そうか。8ピースは珍しいから宣伝しましょう、応援しますよ」

…やっぱり頑張って挑戦して良かったな。

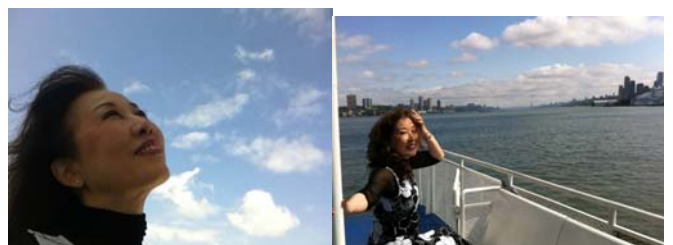
(後日談:その後、音源が仕上がってCDジャケットにライナーノーツ執筆を依頼する段になって、岩波先生は緊急入院。代わりに瀬川昌久先生にお願いすることになりました。そしてCD発売を前に岩波先生は天国に旅立たれてしまいました。ご冥福をお祈り致します。)

【翌日、その後】

良い天気なのに、気だるくてズルズルと半日眠っていました。前夜、寝付けなかったからしかたありません。

夜は、ブルーノートで Dee Dee Bridgewater を聞きました。満席で観客は彼女の一挙一動に反応して楽しい会話がステージ上と客席の間で飛び交います。さすがに貴禄の彼女は無駄な言葉なくステージを動き回って素晴らしい迫力の演奏を満喫させてくれました。

翌々日は、ニュージャージーの Nancy Marano さんの歌レッスンを受けに行きました。さわやかな青空の下、



フェリーに乗って行けたのが良かった。

まるでツアーリストです。

彼女はテキパキと私の歌を診断し、ポイントを付いた指導。やりながらどんどんフィーリングが入ってくるのを感じて楽しい。ああ、継続してレッスン受けたい。でも一度でも体験できて良かった！

歌手の知人から紹介を受けたトレーナーでしたが大当たり。発音については



“Not far from perfection.”（完璧に近いね）と言われてちょっと安心。

“l, と r もOKだね, 時々the を注意、そして a は少しマツの方がいい感

その後、タイムズスクエア近辺でミュージカルシカゴを鑑賞。シカゴで演奏しているジャックさんに案内されてバックステージで主演女優さんたちとお話できたのも楽しかったです。



【帰国後】

NYでの録音のしかたは、エッ?と思うことばかり。でも、できるだけ

“NYではこれが普通だ” といういわゆる“NYスタイル”の体験を尊重して進めてきました。

NY録音自体は終了しましたが、いざこれをCDに作り上げるとなると、これからが大変な作業なのです。一部再録、ミキシング、そしてマスタリング。別途、ジャケット制作のための撮影カメラマン、ヘアメイク、デザイナーの手配、ライナーノーツ入稿、JASRAC 手続き、プレス、流通の段取り、、、。時間かかっても納得のゆくCDに仕上がると嬉しいな。

ヒヤヒヤ、キリキリ、胸の痛む心配事も多かったプロジェクト。それも含めて全体で「またとない楽しい、貴重な経験」でした。様々な立場での協力者の方達のご尽力の賜物です。

ランデル洋子の歌を聴いてくださる方や、協力者の皆様への感謝の気持ちで一杯です。

・・・良いCD作らなくちゃ！CD タイトルは Sear Sound Studio の住所からつけました。

♪是非、楽しく聞いて下さいね。

最後までお読み下さって、ありがとうございました。＼(～o～)／

・*:..。♪。.:*。°♪・*:..。..♪。.:*。♪°*.:

ランデル洋子 090-1428-8769

NY 録音盤 “On The 48th Street” ￥2,800 (税込)

お求め、お問い合わせ先：(株) ランデルズ yo-randell@nifty.com

Tel:03-3706-1551 / 090-1428-8769 Fax:03-3706-9401

またはアマゾン等から。

ランデルズからのご購入は、銀行振込にて承ります。サインご希望の方はお知らせ下さ

